

とくしま生物多様性活動認証機構 設立趣旨書

2019年3月1日、国連総会は、「生物系回復の10年」を宣言し、劣化・破壊された生態系を回復するための取組みを、大規模に拡大させることとしました。その背景には、陸域及び海洋生態系の劣化による生物多様性と生態系サービスの損失が、世界総生産の約10%の損失に該当し、そして、32億人の福利に悪影響を及ぼしていることへの危険意識があります。私たちが住む日本、そして徳島でも、生態系回復の取組みを加速化させていかなければなりません。

徳島県内では、生物多様性の損失や生態系の劣化を引き起こさないように気を配り、そして、それらの質を向上させていこうとしている事業者が多く見受けられます。しかしながら、そのような取組みが社会に認知されているとは言えません。

このような中、徳島県は「生物多様性とくしま戦略 2018-2023」を策定し、重点プロジェクトの一つに「事業者等の生物多様性や生態系の保全への取組みに関する認証制度の創設」を掲げました。事業者による生物多様性や生態系の質の保全・向上に係る取組みの充実・強化や普及・拡大を図るうえで、「とくしま生物多様性活動認証」の仕組みをつくり、自然環境に対する高い意識を持って活動している事業者を評価・認定すること、認証された事業者を広く県民に周知してゆくことはとても有効だと思われま

す。ここに、この徳島の貴重な財産である豊かな生物多様性とそれにより構成される生態系を未来に引き継ぐことを強く志す者が集い、「とくしま生物多様性活動認証」のあるべき方向を示すとともに、具体的な仕組みづくりを行うことを目的に、民・学が連携・協力して「とくしま生物多様性活動認証機構」を設立することとします。

このことにより、より多くの事業者の皆さんが様々な生物多様性活動に取り組みられるようになること、消費者としての県民の皆さんがこうした事業者の取組みを評価しながら製品・産物を購入するようになること（エシカル消費の促進）、ひいては国連による「2030年の国際社会のあるべき姿を示す持続可能な開発目標（SDGs）」の実現に寄与してゆきたいと思ひます。

2019年4月22日

とくしま生物多様性活動認証機構

設立代表者 鎌田磨人

設立発起人（敬称略、五十音順）

（個人）飯山直樹、伊勢 紀、稲飯幸代、大田直友、尾野 薫、小久見正人、加渡いづみ、
鎌田磨人、親納 裕、泊 健一、西田貴明、野田奏栄、藤永知子

（団体）特定非営利活動法人 徳島保全生物学研究会